

平成18年度

病害虫発生予察注意報（第3号）

平成18年7月21日

茨城県病害虫防除所

いもち病の防除を徹底してください！

作物名：水稻
病害虫名：いもち病

[発令の内容]

発生量：多い
発生地域：県下全域

[発令の根拠]

- 7月18～20日に調査した結果、葉いもちの発生地点率及び発病度は平年より高い（表1）。特に葉色が濃い水田や、山間部では発生が多い傾向にある。
- 病害虫情報No.3（7月13日）発表後も発生量は増加している。また、発生推移は本病の多発年と同様の推移を示している（図1）。
- 気象予報によると、向こう一週間は曇りや雨の天気と予想されており、発生を助長する条件である。7月中旬にいもち病感染好適日が出現しており、今後も発生が増加すると考えられる。
- 現在葉いもちの発生が多い水田では、穂いもちの発生が懸念されるため、早めの防除対策が必要である。

表1 調査地点における葉いもちの発生状況（7/18～7/20調査）

地域(調査地点数)	発生地点率(%)		発病度		程度別発生地点数				
	本年	平年	本年	平年	甚発生	多発生	中発生	少発生	無発生
県北 (29)	97	83	24.5	12.4	0	6	12	10	1
鹿行 (6)	67	34	6.8	4.2	0	0	0	4	2
県南 (19)	53	25	8.7	2.0	0	1	3	6	9
県西 (9)	63	9	10.3	0.4	0	1	1	4	3
全県 (63)	76	43	16.0	4.8	0	8	16	24	15

注) 少発生：発病度1～20，中発生：21～40，多発生：発病度41～70，甚発生：71以上

[防除対策]

- 現在葉いもちの発生が多い水田では、穂いもちを対象に穂ばらみ期と穂揃期に必ず防除する。
- 発生が少ない水田では、穂揃期に1回防除する。
- 出穂期に降雨が続くと予想される場合は、いもち病の感染に好適なため、葉いもちの多少に関わらず防除する。
- 防除薬剤は表2を参考にする。なお、粒剤施用後は4～5日間湛水状態とし、大雨による水の流出入に注意する。
- 薬剤防除の際は、周辺作物への飛散に充分注意する。
- 窒素過多はいもち病の発生を助長するため、穂肥は適正に実施する。

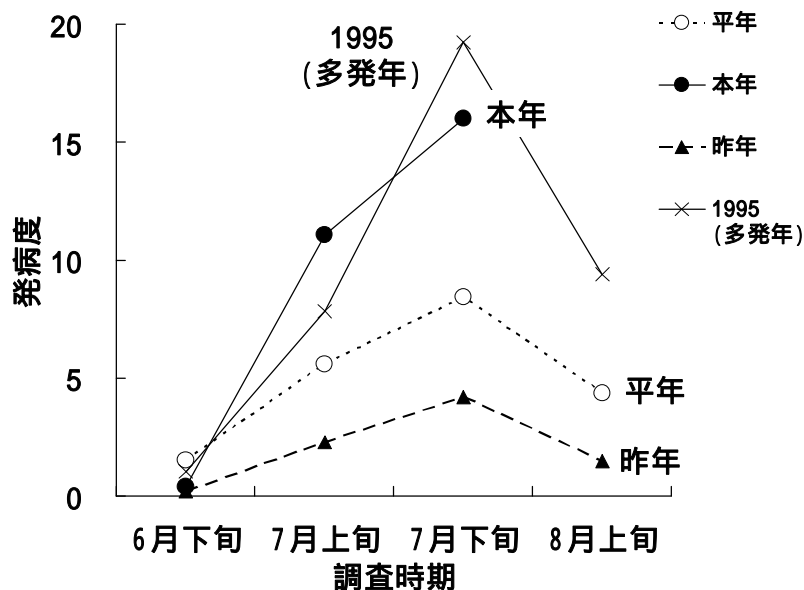


図1 葉いもちの発生推移

注) いもち病発病度の目安 (正式な算出方法は防除所にお問い合わせ下さい)
 発病度 1 : 25 株に 1 株の割合で病斑がみられる。株あたりの病斑は少ない。
 発病度 10 : 25 株に 10 株の割合で病斑がみられる。株あたりの病斑は少ない。
 発病度 25 : 調査した株全てに病斑が認められるが、病斑は比較的少ない。
 発病度 50 : 調査した株全てに多数の病斑が認められる。

表2 イネいもち病に登録のある主な薬剤 (平成18年7月12日現在)

薬剤名	希釈倍数または 使用量	収穫前日数 または使用時期	本剤の 使用回数	有効成分 - 有効成分の 総使用回数
葉いもち及び穂いもち				
アミスターエイト	1,000 ~ 1,500 倍	収穫 14 日前まで	3	アジキストルロン-4 (本田3)
フジワン乳剤	1,000 倍	収穫 14 日前まで	3	イブチアザラジ-3
ヒノザン乳剤 30	1,000 倍	収穫 21 日前まで	3	EDDP-3
ラブサイドフロアブル	1,000 ~ 1,500 倍	収穫 7 日前まで	6 (穂ばら み以降4)	アザラジ-6 (穂ばら み以降4)
穂いもち				
コラトップ粒剤5	3 ~ 4kg/10a	出穂 30 ~ 5 日前	2	ピロチン-3 (育苗箱1, 本田2)
フジワン粒剤	3 ~ 5kg/10a	出穂 30 ~ 10 日前	3	イブチアザラジ-3
クタジンP粒剤	3 ~ 5kg/10a	出穂 20 ~ 7 日前	2	IBP-3 (粒剤は2)
アチーブ粒剤7	3 ~ 4kg/10a	出穂 30 ~ 5 日前 (収穫 21 日前まで)	3	フェニチン-3
コラトップパック	小包装 10 ~ 13 個 (500 ~ 650g) / 10a	出穂 30 ~ 5 日前	2	ピロチン-3 (本田2)

注：農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用してください。